

美術館のよ うな猫喫茶



猫と喫茶とアートをデザインした不思議な空間からはエネルギーと可能性にあふれている。
この空間での過ごし方は決まっていない。この真っ白な空間を生かした活用は無限大だ。

私の所属する武蔵野美術大学の感度の高い学生にこの空間を伝えたいと思い、今回この場を持って紹介させていただこうとパネルを作成した。

真っ白なキャンバスで新たな家族を待つ。

撮影してくれ、と言わんばかりに台座でポーズをとる。この子猫たちが人懐っこいのはNPO団体やボランティアスタッフさん、店舗スタッフの努力の賜物だと、小栗氏は言う。

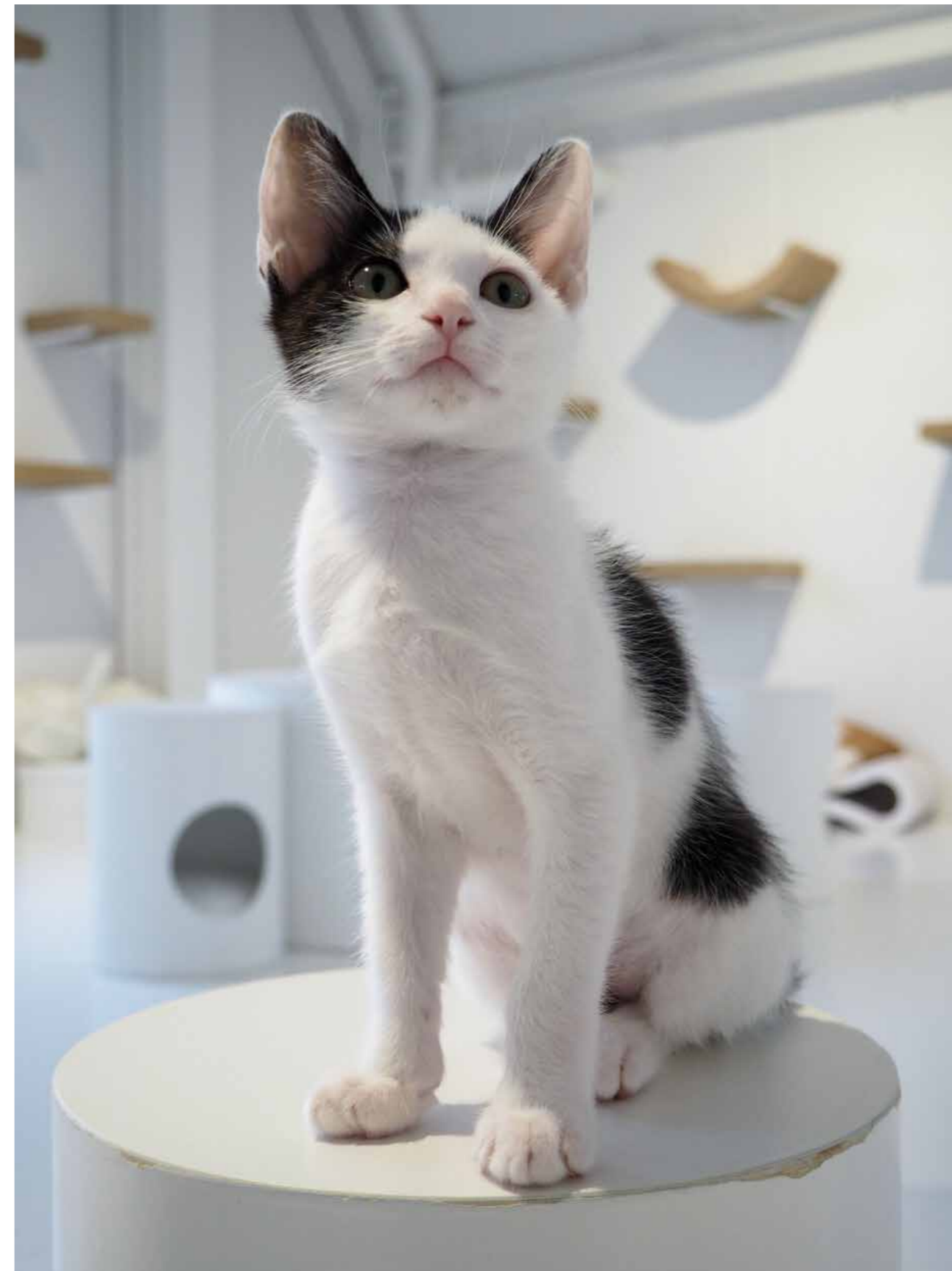
この真っ白な空間で新しい場所への冒険を待つ猫たち。
子猫から成猫まで、自由に空間を我が物顔で行き来する。
甘えん坊な猫、猫嫌いの猫、いつも仲良しな三兄弟の猫。
一步離れて観察してみると色々な猫模様が見えて来て興味深い。

彼らは山梨県の保護団体、リトルキャッツからやってきた。
どんな子がへ来るかはケージを開けてみてからしか分からない。
毎回、色々な状態の猫たちがここへとくる。
そんな猫たちも、スタッフの献身的なケアによって、
この真っ白な空間へとデビューする。

もし一緒に暮らしたい猫がいた場合は、譲渡の相談もすることができる。

ここでの過ごし方は決まっていない。
猫と遊ぶもよし、写真をひたすら撮るもよし、
ギャラリー展示をゆっくり見るのも素敵だろう。
仕事になるかは分からないがワーキングスペースとしても使える。
大学のゼミナールでの使用もあったそう。
もちろん喫茶店として、こだわりの珈琲を頂くのもいいだろう。

是非、足を運んだ際は自分だけの過ごし方を探して欲しいと思う。



猫が主役の空間。
無駄な装飾は
要らない。



カメラを構えると興味津々に迫ってきた。どうやらカメラのストラップが気になるようだ。



「余計な装飾なんてなくとも、この子たちは魅力的なんです。」と、空間デザインを担当したスズキユカ氏はいう。ひときわ猫たちの魅力が際立つ。カメラのシャッターを押すと、白飛びしてしてしまいそうなまでに真っ白で洗練された空間である。

また空間が白い事により衛生面も保ちやすくなるという副産物的な効果も得られたそうだ。ここに来たばかりの子は皮膚病などを患っている事も多い。そのため衛生面には一際注意しているという。美大出身のスズキユカ氏のこだわりの空間は、極限までシンプルに落とし込んだ空間である。「まるで卒業制作を作っているようだった。」とも。

我々の所属するデザイン情報学科において、無駄をそぎ落とすとは永遠のテーマであるとインタビューにて実感した。



タイプライターの白衣。

スタッフの制服はオリジナルで作られている。スズキユカ氏のこだわりの物だ。白衣をイメージした制服はタイプライターと言われる薄くて丈夫な素材で作られている。猫の爪にも強い。

店長のみデザインが微妙に異なるので、訪れた際は是非チェックを。

人間が居心地のいい空間を。

まずは人間が居心地のいい空間を、という事で少々アクセスはしにくいが開静な住宅街に店舗が位置しているのも非日常的な空間となる要員のひとつだろう。

ヒーリングミュージックが流れる空間では、こだわりのオリジナル本格ブレンドコーヒーや、ソフトドリンクが楽しめる。

ドリンク類は猫たちが誤飲しないよう、可愛らしいロゴラベルのついた蓋付きのカップに入れて提供される。

オリジナルブレンドの珈琲豆はお土産にも人気だそう。売り上げは猫たちのための寄付となる。





隠れ家にもなるボイド管のキャットタワー。白い猫が中に入っていると同化して一瞬気がつかなかった。

真っ白な空間で、真っ白なオブジェで猫たちが遊んでいる。
この空間にある、猫たちのアスレチックを兼ねたオブジェたちは全て、
リサイクル素材で作られている。
たとえば建築資材として使用されるボイド管を使ったキャットタワー。
フロアに設置してあるボイド管のオブジェはテーブルや椅子としても使用で
きる。蓋を開けると収納になっており、ゲストの荷物をしまったり、猫の隠
れ家にもなる。

壁に設置してあるアスレチックは、段ボールの廃材を再利用したものを使用しているのだそう。
洗練された空間にサスティナブル要素が加わっている、

サ
ス
テ
ィ
ナ
ブ
ル
な
オ
ブ
ジ
ェ
ク
ト
。





さあ、中に入って猫たちと
思いがけない出会いを…



今回、急遽 web 展示となった為、特定される情報は控えさせて頂いております。